

性感染症について ～クラミジア～

性病とは？

通常は性行為によって移る病期をすべてまとめて性病と呼びます

若者中心に特に多いのがクラミジアや尖圭コンジローマです。

今回はクラミジアについてお話します

クラミジアは性行為によって感染する性行為で10代～20代に感染が多く日本国内の感染症は100万人を越えると言われています。

原因菌はクラミジアトラコマティスで症状は男女共に自覚症状がないことが多く、感染したまま性行為を行ってしまい人を介して感染を広げてしまう可能性と危険性があります。

《男性の場合》

尿道に感染するため尿道に違和感や痒みを感じたり、排尿時に痛みや尿と一緒に膿が排泄されることがあります。

《女性の場合》

子宮頸管に感染するので、子宮頸管を起こすと、おりものが増えたり不正出血などがみられるようになります。

またクラミジアは性器外臓器にも感染します。

目に感染すると結膜炎を起こし、結膜の充血、眼脂の増加をきたします成人の場合に多くは陰部より手指を介して目に感染しますが、新生児ではクラミジアを持つ母親の産道で感染し、肺炎を発症することもあります。

オーラルセックスにより咽頭に感染すると、咽頭痛や咽頭の違和感を感じることもあります。

一般に症状は軽く、無症状の場合も多いのですが感染源となります。

検査は？

通常は尿検査でわかります。尿道スワブも使用することもあります。採取に疼痛を伴います

また咽頭スワブやうがい液により咽頭クラミジア検査もできます。

治療は？

クラミジアの治療薬は抗生物質を使用しますが大きく分けると3種類あります

- ① ジスロマック（一般名：アジスロマイシン水和物）
- ② クラリシッド（一般名：クラリスロマイシン）
- ③ クラビット（一般名：レボフロキサシン）

この順に処方率が高く、特にジスロマックは効果の持続時間が長く人気の治療薬です

日常の注意点・再発予防は？

性行為の際には、コンドームを使用しましょう

オーラルセックスの際にも、コンドームを使用する

複数の性的パートナーとの性交渉を避ける

性風俗での性行為は避ける

クラミジアが陰性と判断されるまで、性行為を避ける

治療薬は、症状が消失しても、決められた日数を内服する

感染している可能性のあるセックスパートナーの治療を強くすすめる

※性病は一度治っても再び感染することがあるのでパートナーと一緒に検査治療しましょう！

